

## ○第2部 今後のお産・子育てに関する疑問にお答えします

### 座談会

今後のお産・子育てに関する疑問等について、糸魚川総合病院の病院長が進行する座談会形式でお答えしました。



【進行】山岸文範 医師  
(糸魚川総合病院 病院長)

【発言者】日高隆雄 医師  
(糸魚川総合病院 産婦人科部長)  
藤井こころ さん  
(糸魚川総合病院 助産師)  
横澤亜希子 さん  
(糸魚川産後ケアセンター La madre 代表)  
飛弾野 郁 さん  
(市教育委員会事務局 こども課 親子健康係長)  
佐藤 孝之 さん  
(市消防本部 警防課 救急係長)

#### 【産前支援】

〔質問〕妊娠診断や妊婦健診は、糸魚川総合病院で受けることはできるのか？

妊娠したのかどうか、妊婦さんによっては、ご自宅で市販の妊娠判定薬で陽性と確認して来られることがあるが、病院では尿の妊娠ホルモンのチェックやエコーで子宮内の胎児の確認をして妊娠の診断をする。もちろん糸魚川総合病院でも可能なので、ぜひ来ていただいて、一緒にエコーを見て実感していただきたい。とにかく、気になることがあったら来ていただければ診断させていただく。診断からその後の手続きのことなど疑問点があれば、助産師がお答えさせていただきます。また、分娩施設が決まっていない方も選択の相談等にも乗せていただく。

(糸病：日高 医師)

連携病院での出産を選択された方は、5から6回は当院で妊婦健診となるので、その際にも必要な指導、妊娠中の過ごし方、悩み相談などをさせていただきます。もちろん連携病院を選んでいただいた方は、そちらの病院の助産師の方からも指導・アドバイスが受けられる。イメージとしては2つの施設で役割分担をしているというよりは、支援が強化されて、二重の手厚い支援が受けられるというふうに考えていただければよいかと思う。また、交通面でも負担が軽減されることと、近くの病院にやっぱり対面して喋る助産師がいるということは妊婦さんにとってすごく心強いことだと思っているので、ぜひ当院の外来を利用していただきたい。

(糸病：藤井 助産師)

〔質問〕タクシーは禁煙車を配車するなどの配慮をしていただけるのか？

基本的に現在、全て禁煙車と聞いている。また、出産時交通費助成としてお願いしているタクシーには、防水シート、バスタオル、手袋などを用意してもらっている。もしも、車内で破

水してしまってシートを汚してしまったらどうしようかと心配な方もおられるかと思うが、安心してご利用いただきたい。

(市 こども課：飛弾野 係長)

〔質問〕市の出産時宿泊費助成事業は、どのような妊婦さんや家族を想定しているのか？

糸魚川市の場合、国道8号や高速道路が利用できなくなると産科医療機関まで行けなくなる可能性がある。分娩予定日が近づいて、大雪や台風などの悪天候が見込まれる際など、事前に産科医療機関に近い施設に宿泊すること等を想定している。また、付添人に関しては、コロナ禍で医療機関での付き添いが困難なこともあったので、出産日前後の5日間のうち5泊できるようにになっている。出産された後、近くの宿泊施設から面会に行くことも想定している。

(市 こども課：飛弾野 係長)

〔質問〕市の子育て支援は手厚いので、ホームページ等でもっと分かりやすく教宣して欲しい！

妊娠届出や出生届の際に対象となる方には、個別に内容をお伝えさせていただいているが、多くの市民や糸魚川市外の方に分かりづらいというお声もいただいている。今年度、本日、お手元に配布させていただいた「子育て応援ガイドブック」を作成したので参考にご覧いただきたい。今後も子育て支援の内容が分かりやすくなるようホームページ等を工夫していきたい。

(市 こども課：飛弾野 係長)

〔質問〕現在妊娠中で上越の病院に通っているが、車で45分前後かかるため、緊急時心配である。

妊婦情報事前登録の有無に関わらず、救急の出動要請があればいつでも救急車が出動する。妊婦さんお一人お一人で状況が異なるかと思うので、腹部の痛みや張り、破水や出血などの症状がある場合は、基本的に出産予定医療機関に連絡し症状等を伝えていただき、主治医から救急車での搬送指示があれば救急車の出動を要請していただきたい。なお、主治医から個人での受診を指示された場合でも、自家用車やタクシーで受診することに本人やご家族が不安な場合には、遠慮せずに救急車の出動を要請していただきたい。

(市 消防本部：佐藤 係長)

【産後支援】

〔質問〕市内で出産した場合、5万円の支援を頂いたが、今後はどのようなになるのか？

昨年までは糸魚川総合病院で出産された場合に、市内産科維持という目的のもと出産奨励金として5万円をお渡ししていたが、現在の支援について、経過を追って説明させていただく。まず妊娠届け出された際である。保健師や助産師との面談後に申請していただくことで、出産応援ギフトとして5万円を口座に振り込ませていただく。こちらは、マタニティ用品などの育児関連用品の購入にお役立ただければと思う。次に、出生届けの際である。こちらは、子ども誕生祝い品として従来から市内共通商品券2万4000円分をお渡ししているが、今回の分娩休止に伴う交通費相当分の支援として5万円分を加え、合計7万4000円分をお渡ししている。その後、保健師や助産師が行う2か月児訪問の際に申請していただくことで、子育て応援ギフトとして5万円を口座に振り込ませていただく。こちらは、産後のお母さんの体を休め

ることや育児の勉強のために使っていただくことも目的としているので、産後のヘルパー利用、産後ケアの利用などにお役立ていただければありがたい。この他、現金ではないが、妊産婦健診の費用約 14 回分を受診票という形でお渡ししている。

健診費用は、自己負担いただいた場合と比べて 10 万円以上ご負担が軽減するようになっている。また、妊娠中から出産した翌々月の末日までというような妊産婦医療費の助成もさせていただいているので、妊娠中から出産にかけてはかなり多くの経済的支援がある。

(市 こども課：飛弾野 係長)

#### 〔質問〕小児科とも連携したサービスを提供できないか？

通常の 2 週間健診、産後の 2 週間健診、並びに 1 か月児健診に関しては、何回も来院しなくても済むよう小児科と同一日に診療できるような体制を整えることとした。また、産後の乳房のトラブルや赤ちゃんの様子が心配でこのまま見ていいんだろうかと不安に思う方もおられるかと思うが、こちらも小児科との連携が取れているので病院へ来ていただければ安心かと思う。

(糸病：日高 医師)

1 か月児健診になる前でいえば、おっぱい外来や産後新生児訪問は今も継続させていただいているので、そちらの方で小児科の診察が必要と判断した場合やお母さんが赤ちゃんのことで悩んでいるというのがあれば、その時点で当院の産科や小児科を紹介、受診の手配をさせていただく。小児科、産婦人科が揃っていることが当院の強みであるので小児科との連携はしっかりと対応していく。

(糸病：藤井 助産師)

#### 〔紹介〕糸魚川産後ケアセンター La madreについて

事業内容について紹介させていただく。まずは居宅訪問型(アウトリーチ)。おおむね産後 1 年目未満の方を対象に訪問を受け付けている。NPO 法人となったので、今後は市の委託を受けて実施できるようになっていくと思うので現在準備中である。次に通所型(デイサービス)。こちらは個別型と集団型があるが、現在は主に公民館を用いて集団型で、何か一つの目的を決めて、みんなにお集まりいただいて楽しい時間を過ごしたり、運動をしたりというような活動を展開している。その中で個別型で少し相談を受けたりというようなところも一部行っているが、産後ケアというよりはどちらかというと産後サポート事業に近い感じで活動している。それから将来的にやりたいと思っているのが、短期入所型(ショートステイ)である。こちらは、糸魚川総合病院さんが事業をスタートしてくださるので、糸魚川のお母さんたちは、きっとすごく安心感があるんじゃないかなと思っている。ショートステイについては焦らずに準備が整い次第、民間には民間の良さがあると思っているので、いずれは実現できればいいなと考えている。

現在、NPO 法人パレットは 20 名のワーカーがおり、半数が助産師・看護師で、残りの半分が保育士や会計士、ピアノ講師など、それぞれ色々な強みを持ったメンバーが揃っている。今は市内で分娩することはかなわないが、メンバーみんなで力を合わせ、子育て経験者も非常に多いので、妊娠中から育児期間の女性の安心を願い、アイデアを出しながら活動している。

私達のモットーは、出産を経験した全ての女性に産後ケアをということで、産後ケアを受けることが特別なことではなく、ちょっと体がつらい時、ちょっと他の人と楽しく時間を過ごしたい時に気軽に利用できるアットホームな民間ならではの産後ケアを提供していきたいと考えている。

(La madre 横澤 代表)

## 最後に

「出産を糸魚川市内でできるよう、糸魚川総合病院産婦人科の再開を切望しております」という当然のご意見もいただいている。これに関しては、日高先生の講演にもあったように、全国の大学病院は集約化を始めている。その理由の一つは、少人数の分娩担当医だけでお産を取り続けることが、医療事故につながってしまうかもしれないというリスクがあることである。

また、距離の問題もあり、糸魚川の場合は上越市、黒部市までは約1時間必要であり、こういった地域が日本全国にあることは間違いないことで、そこで安全に分娩をどうやって続けるかということが非常に重要なことだと思っている。病院を集約化して大きな病院をぽつぽつと作るということも重要だが、その間に挟まれる地域に対して連携をとっていくことが大事である。今回、日高先生に糸魚川総合病院へ来てもらって一番良かったのは、黒部市民病院とのデジタル連携である。情報を共有化することによって、少ない産婦人科医でも安全に分娩し続ける可能性はまだ残されていると思っている。そこで重要なのは、糸魚川の話で言えば、糸魚川総合病院の産婦人科に1回関わっていただくということである。情報の共有化が必要であり、黙っていたら、上越の病院の情報は糸魚川総合病院には入らない。何かあった時に素早く対応するため、どこに行ったら良いかを判断するためには情報が必要である。この先のことを考えると病院、市、関係団体が色々な対策を考えてくれるが、一番重要なのは市民の皆さんである。皆さんと一緒にどうやっていくかということを考え続けなければならない。今日参加したメンバーを中心に、糸魚川の産科・分娩の灯を消さないように頑張っていきたいと思うので、ぜひご協力をお願いしたい。

(糸病：山岸 病院長)

妊娠診断や妊婦健診は糸病で受けることは出来るのでしょうか？